

30代検察事務官（支部会計担当）

令和8年4月現在

支部総務課 会計担当



【検察事務官を志望した理由など】

学生時代、当初は、横浜市役所を志望していましたが、木村拓哉さん主演のドラマ「HERO」に魅了された友人に、一緒に検察庁を目指そうと誘われ、ドラマを見たことがなかったものの、もともと刑事事件の捜査といったものにも興味があったため、横浜地検を志望するに至りました。

【現在の仕事内容について】

私は、支部の総務課で会計担当をしています。会計担当では、主に、罰金などの収納手続、物品などの管理・請求、庁舎の維持・管理に関する業務を担っています。

公務員は、税金により予算が成り立っているため、常に無駄な支出がないよう心がけていますが、会計担当では、特に、真に必要な経費なのか十分に精査した上、無駄遣いがないよう注意を払い、責任感を持って職務に当たっています。

【仕事のやりがい・横浜地検の魅力を教えてください】

これまでの検察事務官人生では、立会事務官として重大事件等の捜査に携わったり、徴収担当として罰金の納付意思がない者を労役場に收容したり、さらに、上級庁である東京高検、最高検、法務省などに異動したり、様々な業務を経験をしました。

その中でも、最近まで所属していた刑事政策総合支援室の業務を紹介します。ここでは、被疑者・被告人が再犯を犯さないよう支援（社会復帰支援）を実施していました。「なぜ、検察庁が罪を犯した人を支援するのか？」という疑問を抱くかもしれませんが、例えば、ホームレスで万引きをした人、家庭内での暴力事件を犯した人など、生きづらさを抱えて罪を犯した人が、犯罪に至った原因を解決せずに、環境の変化もないまま社会に戻ってしまうと、また同じような事件を犯してしまうおそれがあり、新たな事件、被害者を生まないためにも、生活環境

を調整するなどの支援が必要となります。

支援に向けて尽力しても、うまくいかないことも少なからずありましたが、支援した方、その家族から感謝されることは多く、非常にやりがいを感じました。横浜地検では、このような社会復帰支援のほかにも、犯罪の被害に遭った方の支援、司法面接といった取組みにも力を入れています。

なお、横浜地検のホームページに、社会復帰支援について紹介した資料を掲示していますので、ご覧いただくと幸いです。

【学生の皆さんに向けてメッセージ】

検察庁は多忙なイメージがあると思います。確かに、事件発生後、限られた時間内に捜査を遂げるためには、家に帰るのが遅くなることもあります。

他方で、育児や介護により、早めに退庁しなければならない職員については、周囲の協力も得ながら、各種制度を利用して、仕事と育児・介護を両立させることもでき、私のような男性職員でも、数ヶ月の育児休業、早めに退庁するための休憩時間の短縮制度を取得することができ、今でも子供を保育園に送迎するため、少し遅めの出勤をしています。

就職活動当時は、育児休業等の取得は一切考えていませんでしたが、横浜地検では、職員の生活環境に応じた勤務形態を選ぶことができ、安心して勤務することができます。

検察庁に少しでも興味があれば、説明会や官庁訪問に参加して、ホームページだけでは知ることができない、横浜地検の雰囲気などを知っていただければ嬉しいです。